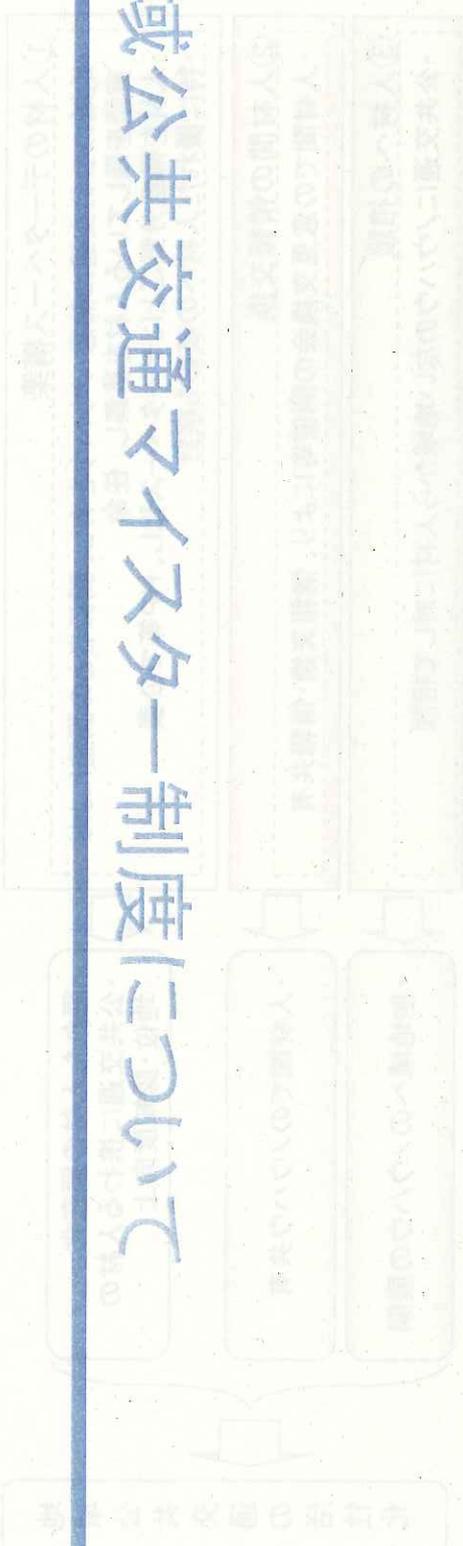


開催日時	2024年4月13日
開催場所	東京都庁 第1本庁舎 第1001号室
開催時間	10時00分～11時30分
参加者	関係機関、関係団体、関係者
主催	関東運輸局
共催	国土交通省
後援	関係機関、関係団体、関係者



# 地域公共交通マイスター制度について



都道府県	マイスター	所属機関	連絡先
東京都	山崎 隆一	関東運輸局	〒100-8501 東京都千代田区千代田1-1-1
埼玉県	田中 健一	埼玉県運輸局	〒350-8501 埼玉県さいたま市大宮区大宮1-1-1
千葉県	佐藤 健一	千葉県運輸局	〒270-8501 千葉県千葉市中央区千葉1-1-1
茨城県	鈴木 健一	茨城県運輸局	〒300-8501 茨城県水戸市水戸1-1-1
栃木県	高橋 健一	栃木県運輸局	〒320-8501 栃木県宇都宮市宇都宮1-1-1
群馬県	渡辺 健一	群馬県運輸局	〒370-8501 群馬県前橋市前橋1-1-1
東京都	山崎 隆一	関東運輸局	〒100-8501 東京都千代田区千代田1-1-1

## 関東運輸局 平成24年4月13日

国土交通省

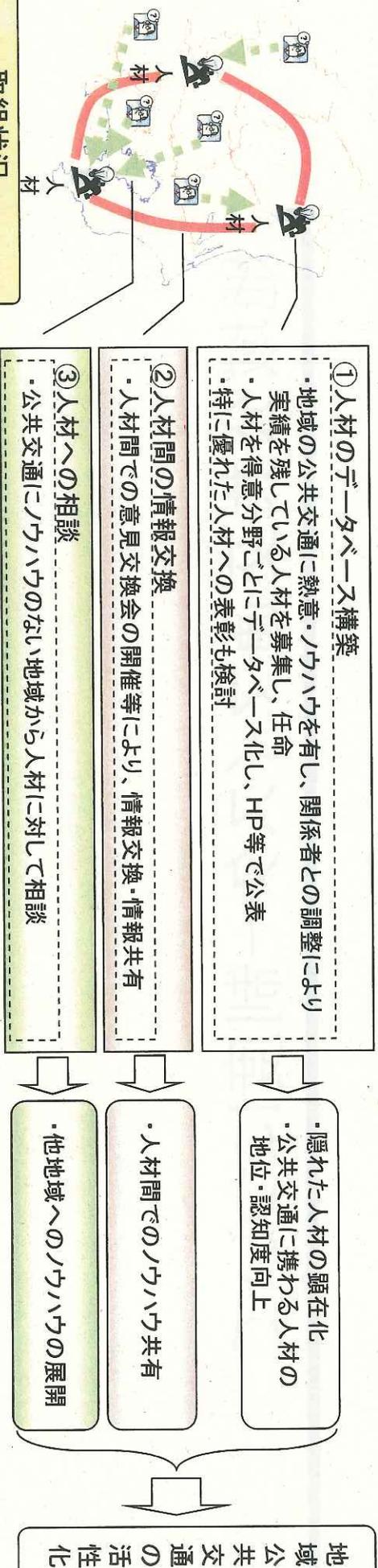
# 地域公共交通マイスター制度について

## 概要

・地域が主体的に地域公共交通の維持・利便性向上・活性化に向けた先進的・独創的な取り組みを実践するにあたり、その取り組みを中心となって推進し、知識、経験、熱意を有する自治体職員の方、交通事業者職員の方、NPO法人職員の方等を、有識者、報道機関代表者及び各交通事業者団体代表者から構成する選定委員会が、「地域公共交通マイスター」として選定し、関東運輸局長が任命する。

<選定委員> H24.4月時点 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院教授 交通ジャーナリスト フリーアナウンサー 関東七社会(共同通信社東京支社長)	中村文彦 (委員長) 鈴木文彦 青山佳世 渥美一志	関東鉄道協会会長 東京バス協会会長 関東地区ハイヤータクシー協議会会長 関東旅客船協会会長	根津嘉澄 小田征一 大野清一 山崎潤一
--	---------------------------------------	--	------------------------------

・「地域公共交通マイスター」は、自らの取り組みから得られた知識や経験をより多くの関係者に継承する役割を担う。



## 取組状況

平成22年11月 1日～30日  
 平成23年 3月10日  
 4月25日  
 6月27日  
 10月11日～11月11日  
 平成24年 3月 9日  
 3月22日

地域公共交通マイスター候補者の推薦を募集  
 地域公共交通マイスター選定委員会を開催  
 初代地域公共交通マイスター13名を任命  
 フロントール、取組事例等を「地域公共交通マイスターデータベース」としてホームページで公開  
 地域公共交通マイスターの知識・経験の普及等のため「地域公共交通マイスターワークショップ」を開催  
 第2回地域公共交通マイスター候補者の推薦を募集開始  
 第2回地域公共交通マイスター選定委員会を開催、選定委員・初代マイスターとの意見交換会を開催  
 二代目地域公共交通マイスター4名を任命

# 地域公共交通マイスター

## 【自治体関係】

所 属	氏 名	取組概要
茨城県日立市	高橋 正朗	 <ul style="list-style-type: none"> <li>交通空白地域解消のため、地域がNPOを設立してデマンド型乗合タクシーを導入するに当たり、説明会に参加し、地域の負担に理解を得るとともに、手続全般に対し、中心的役割を果たした。</li> <li>既存の路線バスの維持・拡充のため、地域との話し合いに参加し、全国初の地域住民とバス事業者と市による「パートナーシップ協定」の締結により、地域住民によるバス乗車促進運動、バス事業者による地域の声を取り入れた利便性向上策の実施につなげた。</li> </ul>
千葉県南房総市	嵐田 紀之	 <ul style="list-style-type: none"> <li>合併により不均衡が生じたコミュニティバス等の再編整備に取り組み、市内全地区長への説明や市役所庁内の連携・情報共有等を通じて、快速バスの運行やデマンド交通導入等、「機能と役割を明確にした公共交通体系」の構築を図った。</li> <li>快速バスが来訪者にとって二次交通としての機能を十分発揮できるよう、鉄道会社への積極的な売り込みを行う等、一次交通（鉄道・高速バス）との連携強化を図った。</li> </ul>
埼玉県三郷市	大野 練夫	 <ul style="list-style-type: none"> <li>市民の要望を集約し、路線計画やバス停立地方針等の企画を自ら行い、民間バス事業者が採算性を考慮した上で事業に参入する「三郷モデル」を作りあげた。</li> <li>バスネットワーク再編による大幅なバスの増便及び自転車とバスの連携強化を図るなど、国、県、交通事業者等との調整役となりながら、公共交通利用促進によるCO2削減に取り組んだ。</li> </ul>
神奈川県相模原市	藤井 一洋	 <ul style="list-style-type: none"> <li>交通不便地域におけるコミュニティバスや乗合タクシー導入に当たり、地域住民・交通事業者・行政の三者協働や運行継続条件・導入基準等を含めて制度化した。</li> <li>地域の運行協議会等において、市と地域の役割分担と協働体制の構築を説き、地域組織主導で住民説明会を開催させるなど、住民自ら取り組む姿勢を引き出した。</li> </ul>
神奈川県秦野市	保坂 富士雄	 <ul style="list-style-type: none"> <li>交通渋滞問題や交通空白地域解消のため、TDM施策による交通需要側の意識改革と乗合タクシーの導入による地域公共交通の利便性向上を図り、自家用車から公共交通への転換や地域公共交通の維持・活性化を図った。</li> <li>乗合タクシーの実証運行開始に際し、地域懇談会出席の他、事業者・商店街・住民等との協議も精力的に実施し、多様な意見について調整を図り、実証運行開始後も多様な意見を反映すべく、運行計画の見直しを行うなど、持続可能な公共交通の構築に努めた。</li> </ul>

# 地域公共交通マイスター

## 【鉄道事業者関係】

いすみ鉄道株式会社	鳥塚 亮		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いすみ鉄道における2年間の存続検証期間中、公募を経て社長に就任し、沿線商店街関係者による応援団等地元と良好な関係を築きながら、存続に向けて物品販売やネーミングライツ等即効性のある増収策を打ち出し、地域鉄道の再生に取り組んだ。</li> <li>・豊富な人脈を活かし、沿線地域の恵まれた自然環境に着目したアニメキャラクターの登用やイベント列車の導入等観光鉄道化に取り組んだ。</li> </ul>
社団法人銚子市観光協会	向後 功作		<ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子電気鉄道在職時、広報担当として積極的な情報発信に努め銚子電鉄の知名度向上に貢献した。</li> <li>・地域鉄道存続のためには地域の活性化が不可欠との信念のもと、大学でまちづくりを学び、まち歩きとセットにしたイベント列車運行など、鉄道のイベント開催にあたって、まちの魅力もPRできる要素を盛り込み、銚子のまちの知名度向上に尽力した。</li> <li>・平成22年4月、銚子電気鉄道を退職し、現在銚子市観光プロデューサーとして地域観光振興の企画や営業活動、市民活動の連携支援を行った。</li> </ul>
ひたちなか海浜鉄道株式会社	吉田 千秋		<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅構内で地域の保育園児の演奏会や地元野菜の直売会実施など、地域に親しまれる「市民鉄道」として数多くの取組みを通じ、鉄道を核とした湊線沿線の新たな魅力づくりと、情報の発信を行っている。</li> <li>・前例にとらわれない柔軟な発想で沿線の観光施設や旅行業者と積極的に連携を図り、鉄道利用者の増加に取り組んでいる。</li> <li>・地域住民と一体となって「鉄道を中心としたまちづくり」に取り組んでいる。</li> </ul>

## 【バス事業者関係】

イーグルバス株式会社	谷島 賢		<ul style="list-style-type: none"> <li>・不採算路線維持のため、大学と連携し、GPSと乗降センサー等のシステムを活用した路線毎の運行情報や利用状況のデータ把握・分析と、利用者アンケート等を通じた顧客ニーズの把握を通じて、路線バス事業を「見える化」し、運行の最適化、コスト改善により事業の持続性を導き出した。</li> <li>・観光資源がある過疎地の生活路線バス等において、上記のプロセスに加え、路線のハブ&amp;スポーク化、ゾーン制運賃等創意工夫による取組を実施し、改善を図った。</li> </ul>
山梨交通株式会社	雨宮 正英		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス交通の利便性向上と活性化に向けて、インターネットを利用して路線やバス通過時刻の検索ができるバスマップに、リアルタイムの運行情報やバス停周辺の観光情報を組み合わせた「やまなしバスコンシェルジュ」システムを産学連携により開発し、実用化する等、他業種、大学、行政等と連携しながら、創意工夫による取組を実施した。</li> </ul>
神奈川中央交通株式会社	永山 輝彦		<ul style="list-style-type: none"> <li>・BRT導入による渋滞緩和やCO2削減を図り、また新しい企業定期券として、カーボンオフセットとバス定期券を組み合わせた「グリーンエコパス」を導入するなど、公共交通機関として、環境問題にも先進的に取り組んできた。</li> <li>・本社の管理部門のみならず、営業所での運行管理や労務管理での知識経験も生かし、路線新設や再編等に取り組む一方、BRTなど先進的な取り組みについて、地域公共交通会議等を活用した自治体との調整を行っている。</li> </ul>

# 地域公共交通マスター

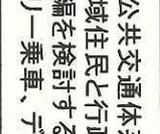
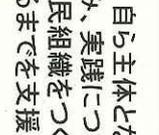
## 【タクシー事業者関係】

<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社愛鶴</li> <li>株式会社ハートフルタクシー</li> </ul>	<p>篠原 俊正</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への貢献と要望に応えるため、介護・福祉の支援を行うタクシー救済事業(Qタク)サービスを構築し、「陣痛119番」など利用者ニーズの多様な用途に応えられるメニューを構築した。</li> <li>子育て支援タクシーを運行し、今まで運送依頼を躊躇していた子供、母親等との間に、タクシーは安全・安心であるという信頼関係を築きあげた。</li> <li>交通空白地域解消のため、市民の交通アクセスはどうあるべきかを考慮し、行政と連携を図りながらコミュニティタクシーの運行を実施した。</li> </ul>
---	--------------	---	---

## 【旅客船事業者関係】

<p>伊豆諸島開発株式会社</p>	<p>相良 宣尚</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェットフォイルの高速性・機動性を活かした新規航路開拓のため、東京～館山～下田を結ぶトライアングル航路のモニター運航を通じ、定期航路化を実現させた。</li> <li>新たな観光需要と地域活性化の推進を目指し、下田市が中心となって設立した「南伊豆地区・首都圏海上高速航路推進協議会」に参画。東京～下田、伊豆大島～下田をジェットフォイルで結ぶモニター運航を実施し、伊豆大島～下田の定期航路化を実現させた。</li> </ul>
-------------------	--------------	--	---

## 【その他】

<p>特定非営利活動法人ウイング北茨城</p>	<p>高松 志津夫</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通弱者である障害者、高齢者に地域密着型サービスを提供することを目的に自らNPO法人を設立し、県内で「福祉有償運送」を行うため、各市町村に対して運営協議会設置運動を展開した。</li> <li>公共交通機関のみならず、スクールバスや一般企業保有の送迎バスなど、地域資源の有効利用を促進する活動を提唱し、地域全体の移動手段の必要性を行政に提言した。</li> </ul>
<p>特定非営利活動法人まちづくり支援センター</p>	<p>為国 孝敏</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>佐野市内の公共交通体系の見直しに際し、交通空白地域において、自ら提案・実現したクーポンツップの全てに参加し、最前線に立つて地域住民と行政との橋渡し役を務め、住民主導による実証運行につなげた。</li> <li>バス路線再編を検討する市役所職員に対し、デマンド交通や新規路線のスリム化等の指導を実施し、基幹線と支線のネットワーク化やフリー乗車、デマンド運行などを導入し本格運行に導いた。</li> </ul>
<p>特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク</p>	<p>清水 弘子</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県内で交通不便を感じる住民が、自ら主体となって取り組む「地域生活交通づくり」を支援し、地域主体を育て、地域の合意形成、運行に至るまで共に取り組み、実践につなげた。</li> <li>大和市西鶴間・上草柳地域において、住民組織をつくり、市との協働事業により、運行経費を自治会・各世帯からの負担と協賛金等でまかなう「のりあい」の運行に至るまでを支援した。</li> </ul>
<p>三立応用化工株式会社</p>	<p>佐羽 宏之</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県の東毛地域において公共交通の維持・発展を目的に「2015年の公共交通をつくる会」を設立。わたらせ渓谷鐵道や上毛電鉄を民間の立場から支援を行うことを目的に「わたらせ渓谷鐵道市民協議会」、「上毛電鉄友の会」を設立。</li> <li>各組織ともに無償のボランティア参加を基本に活動。公共交通が苦境にある状況にあって様々な取り組みを通して、市民の手で既存の公共交通を守り・発展させていくことを提唱し、沿線市民に公共交通への関心を持たせている。</li> </ul>

※詳細は関東運輸局HPをご覧ください。(http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/kikaku\_kankou/index.html)